

# 令和4年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

## 第1回入退院時連携推進部会を開催しました



- 6月7日（火）上越市教育プラザにて、第1回入退院時連携推進部会を開催しました。参加者は部会メンバー7人、事務局3人でした。オンライン開催が続く中、久しぶりに会場に集合し、対面という形で実施することができました。
- 昨年度の部会の振り返りを行い、今後の取組方針について確認しました。その後、病院から提出いただき更新した医療機関連携窓口一覧表について、部会メンバー各々の立場から意見交換を行いました。また、今年度の研修会開催に向けての話し合いを行いました。

### 【医療機関連携窓口一覧表について】

- ・ 更新された医療機関窓口一覧表が手元にあると、病院に連絡する際の心理的負担が軽減されると思う。
- ・ 病院からの貴重な情報なので、活用していけると良い。

### 【今年度の研修会について】

- 在宅の立場
- ・ 顔の見える関係ができていると連携がスムーズに行える。昨年度に実施した『コロナ禍における入退院時支援に関する研修』は、在宅と病院の関係づくりに繋がりが良かったので拡げたい。

- ・ 在宅と病院が一堂に会する研修は貴重。ケアマネとしての経験が少ない人が出ると勉強になると思う。
- ・ コロナ禍により、病院だけでなく、地域包括支援センターとも顔の見える関係づくりに難しさを感じている。

### ●医療の立場

- ・ 病棟で働いていると、退院後に地域の中で多職種がどのような支援をしているのか分からないことが多い。昨年度の研修は、在宅側の動きを知り、理解することにも繋がった。
- ・ 昨年度の研修は、在宅側と忌憚のない意見交換ができて勉強になった。このような研修には、病棟看護師にも積極的に出て欲しいと思った。
- ・ 病院として、研修に参加できる人数は限られるが、回数を重ねることで在宅と医療の相互の理解が深まると思う。上越地域全体として、研修を重ねていくことが必要ではないか。

### 【まとめ】

- ・ 在宅と医療の相互理解を深めるためには、一回だけで終わらせるのではなく、繰り返し研修を行う必要がある。
- ・ スムーズな連携には、顔の見える関係づくりが大切。一同に会し研修をすることで、互いへの理解が進み、連携時の心理的負担も軽減される。

### 【次回について】

- ・ 第2回部会は8月頃に開催予定とし、今年度の在宅医療・介護連携のための研修について、具体的内容や方法を検討します。